

げんでん ふれあい 福井

2009 SUMMER 第34号



第60回 全国植樹祭2009ふくい
平成21年6月7日開催

戦国大名「朝倉氏の歴史と文化(四)」

ふるさと福井
人物シリーズ 「国学者 伴 信友」



第60回

未来へつなごう 元気な森 元気なふるさと 全国植樹祭 2009ふくい

平成二十一年 六月七日開催

「未来へつなごう 元気な森 元気なふるさと」をテーマに、第六十回全国植樹祭が六月七日、天皇皇后両陛下ご臨席のもと新緑に囲まれた福井市の一乗谷朝倉氏遺跡を式典会場に県内外から約六千三百人が参加して開催されました。全国植樹祭の様子をご紹介します。

福井県での開催は、昭和三十七年に丸岡町（坂井市）女形谷で開かれた第十三回以来、四十七年ぶり二度目となり、「第六十回」という節目の大会になりました。

植樹会場は、福井市脇三ヶ町と朝谷町の二会場で、早朝より式典に参加する約四千人の県民の皆さんが苗木を一

本ずつ丁寧に植えました。

また、今大会では県内に四つの地域会場を設け、同時に多くの県民が参加して盛大に行われました。



福井市脇ヶ町会場

坂井会場：坂井市たけくらべ広場
奥越会場：大野市亀山周辺エリア

「越前おおの結スカーション」

丹南会場：越前町福井総合植物園

「フランドピア朝日」

嶺南会場：若狭町縄文ロマンパーク

式典会場プロローグ

響の師による拍子木の音で開幕したプロローグアトラクションは、「ようこそ健康長寿ふくいへ」と題して十時二十分から始まりました。緑豊かで美しい会場から世界へ植樹運動や環境保全のメッセージを発信しました。

①一乗谷

高校生四人の司会で一乗谷朝倉氏遺跡を紹介。

②木のモノローグ

貫地谷しほりさん（女優）が鎌野太津子さんによるハープの演奏にのせて「木もれびステージ」で詩を朗読。

③風と華の舞



風と華の舞

仁愛女子高校ダンス部などによる演舞隊が「衆衆玄達」の演奏で能をイメージした華やかな舞で福井が誇る歴史や文化を表現。

④土のロマン
福井市下宇坂小学校の生徒達によって太古の恐竜に思いをはせる子ども達が何億年と生命を支え育んできた



財団シンボルマーク

財団法人げんでんふれあい福井財団は福井県の文化振興とふれあいにゆとりのある地域づくりに寄与することを目的にしています。本誌はこの主旨に従い県民のみなさんとの絆を大切にしたい広報誌を目指します。

CONTENTS — 34

- 第60回 全国植樹祭 2009 ふくい 平成21年6月7日開催 2
- 戦国大名「朝倉氏の歴史と文化(四)」 4
- ふるさと福井・人物シリーズ 「国学者 伴信友」 6
- 第12回 風花随筆文学賞 財団賞受賞作品紹介 8
- ふくいの伝統行事シリーズ 「関見神社例祭神事」 10
- 敦賀市立博物館誌上ギャラリー / 28 11
- 福井の文学碑 「彫刻家・ハープ奏者・箏曲家 雨田光平」 12
- げんでんふれあいスペシャル 2009 13
- 若狭路文化研究会の十周年を迎えて 13
- 情報ファイル 14

FRONT COVER



福井県指定
無形民俗文化財
「関見神社
例祭神事」
〈若狭町〉

若狭町成願寺に鎮座の関見神社の例祭神事が今年も盛大に行われました。多くの神事の中でも平安の雅を思わせる二人の少年が演じる「王ノ舞」が目をひきました。

王ノ舞の衣装は、濃い茶色の鼻高面をつけ、赤や青、黄色などの色紙で飾をつけた烏帽子をかぶり、紫色の振り袖の上に黄色の狩衣と括袴を着て女物の袋帯を結び、赤い手甲と脚絆、白足袋に草鞋はぎです。鉾は、木製で刃の部分貼り、鍔は色紙で飾りつけています。

多くの参拝者が見守る中、舞人が鉾持ち役とともに笛と太鼓の囃子に合わせて、勇壮で優雅な「王ノ舞」を演じました。

〈関連行事（10頁）ふくいの伝統行事シリーズ〉

福井の
大地の
力を表
現。

⑤ふくい
の風土

福井県
内の情
景を平
岡愛子
さんが
奏でる

マリimbaの音色にのせて貴地谷しほ
りさんが紹介。

福井市明道中学校他の皆さんで編
成した合唱隊が「福井県民歌」を大
合唱。

⑥苗木入場

緑の少年団が県立羽水高校他二校に
よる吹奏楽隊の演奏にのせて苗木を
かかえて入場。

⑦感謝状の贈呈

大会シンボルマーク、ポスター原画
などの最優秀賞者に感謝状が贈られ
ました。

記念式典

十時五十九分に天皇皇后両陛下が式
典会場に到着されました。



天皇皇后両陛下ご到着



土のロマン

(1)開会のことば

(2)三旗掲揚と国歌斉唱

(3)主催者あいさつ

大会会長を務める国土緑化推進機構
会長の河野洋平衆議院議長があいさ
つを行い、続いて西川知事が「六十
回の節目の祭典を契機に緑化運動の
輪が県内のみでなく全国に広がるよ
う願います。」とあいさつされました。

(4)表彰

緑化推進や自然環境保全等に功績の
あった緑化功労者はじめ全日本学校
関係緑化コンクールなどの表彰が行
われました。

(5)苗木の贈呈

天皇皇后両陛下 お手植え・お手播き
天皇陛下は、ウスズミザクラ、アカ



天皇陛下お手植え



皇后陛下 お手植え

マツ、
ケヤキ
の苗木
を植樹
し、ヤ
ブツバ
キとキ
タコブ
シの種
を播か
れまし

た。

皇后陛下は、ウワミズザクラ、ト
チノキ、スタジイを植えられ、ユキ
バツバキ、ヤマボウシの種を播か
れました。

(7)開催テーマ表現

「未来への一筆啓上」と題し、一歳か
ら六十歳までの県民六十人が、元氣
な森づくり、ふるさとづくりへの決
意を読み上げました。

(8)大会宣言

(9)リレーセレモニー

西川知事が次回開催地の神奈川県
の松沢成文知事に全国植樹祭のシンボ
ルを手渡し成功を祈りました。

これを受けて神奈川県知事は、「森
が育むあ
なたの心
を育む
あなた
の心」を
テーマに
福井大会
と同じよ
うに立派
な大会に
したい」



リレーセレモニー

(10)閉会のことば

山岸県議会議長が閉会のことばを述
べ記念式典が終わりました。
十二時十分頃、天皇皇后両陛下は、
会場の多くの参加者に手をふってあい
さつされ会場をあとにされました。

エピソード

◎エピソードアトラクション

記念式典の余韻の中、福井から全国

へ広がる森づくりふるさとづくりと
題して、福井市松本小学校児童と一般
県民により結成された「カリン音楽隊
「ふくい元気森の森オーケストラ」の団
員六十五名が、木の楽器「カリン」の演
奏を披露しました。

この後、出演者全員によって「大地
讃頌」を大合唱して幕を閉じました。

地域会場のようす

四つの地域会場では、式典会場での
記念式典が行われている状況が大型モ
ニターで放映され、天皇皇后両陛下の
様子などが即座に伝えられました。
本会場の式典などをリアルに感じなが
ら各地域でのイベントでさまざまな体
験をした参加者は自然の恵みを十分楽
しんでいました。

結びに

第六十回全国植樹祭がこのようにし
て成功裡に開催されました。これを契
機に今までに培ってきた三つの県民運
動（一、「健康長寿ふくい」の自然を
知り、伝えよう。二、元気な森をつく
ろう。三、花と緑にあふれるふるさと
をつくらう。）が

地域に広
がり、森
を育む活
動が一層
活発にそ
して永続
的に展開
されるこ
とを望み
ます。



戦国大名

朝倉氏の歴史と文化(四)

一乗谷朝倉氏遺跡

文：青木豊昭

筆者プロフィール



青木 豊昭氏
Toyoaki Aoki

1944年、福井県生まれ。福井大学教育学部卒業。福井県立博物館学芸課長、福井県教育庁埋蔵文化財調査センター次長、同所長。福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館館長を経て現在、同館特別顧問。著書『越前若狭地域歴史の謎に挑む』(2006.8.1刊)。共著『日本城郭大系11』『継体天皇の謎に挑む』『福井県史通史編—原始・古代』『鯖江市史通史編上』『前方後円墳集成中部編』『継体大王と越の国』『福井県不思議事典』他。

四 一乗谷朝倉氏遺跡

(1) 発掘調査の学術的成果

昭和四十二年から遺跡の発掘調査と史蹟整備の事業が計画的に進められ、今年で四十三年目を迎えた。

そして、何よりも大きな成果は当初「戦国村一乗谷」の復原とのキャッチフレーズで事業が開始されたが、これが大きな誤りであり、「戦国城下町一乗谷」、ないしは、「中世都市一乗谷」の復原とのキャッチフレーズが正しいことを明らかにしたことである。

加えて、文献史学から解明された朝倉氏の歴史と文化、その中心舞台となった一乗谷の高い文化の実像を甦らせたことである。

(2) 戦国城下町の概要

一乗谷の城下町は狭い谷間の上と下(約一七〇〇分の距離)に、それぞれ上城戸と下城戸を築き、その間の城戸の内のほぼ南よりの東山裾に当主館を構え、その近辺に新御殿・中ノ御殿・諏訪館・南陽寺・犬の馬場・柳の馬場など当主ゆかりの主要施設群を配置し、背後の東側山頂に朝倉氏の本城一乗谷城を築いている。城下町を望む小尾根上にはいくつかの櫓を設けている。



戦国城下町、一乗谷(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館パンフレットより)

城下町内には武家屋敷・町屋・寺社が軒を連ねて密集していた。一乗谷の西側にある八地谷や道福谷にも「八地千軒・道福千軒」と伝えられ、家屋が密集していたことを裏付けている。城戸の内では約一万人が生活していたと考えられている。

あつた。前者には足利義昭の御所となつた安養寺や朝倉氏ゆかりの心月寺があり、後者には含蔵寺や経堂のほか、川港・阿波賀市場・唐人の在所がありそれぞれ賑わつた。

(3) 遺跡は語る

それでは次に主要な遺跡についてまず語ることとする。

① 上城戸・下城戸

いずれも外側に水堀を、内側に高い土塁を築き、城戸の内を堅固に守っている。下城戸口の石組みは巨石を用い、一個四五丁の石もあり、人々を威圧している。土塁の上部には堀も設けられていた。



下城戸

② 当主館

平地部は三方を水堀と土塁で、山裾部は三方を空堀で囲む。谷の中では、最大の館で、十数棟余の建物群から成る。

館の内部は七間に十一間の常御殿を中心に主殿・泉殿(会所)・数寄の座敷などのハレの空間(南側)と台所・湯殿・蔵・離れ座敷・厩などのケの空間(北側)とに二分されている。



朝倉氏の本城。一乗谷城

残り漆の入った槐の出土した塗師、墨

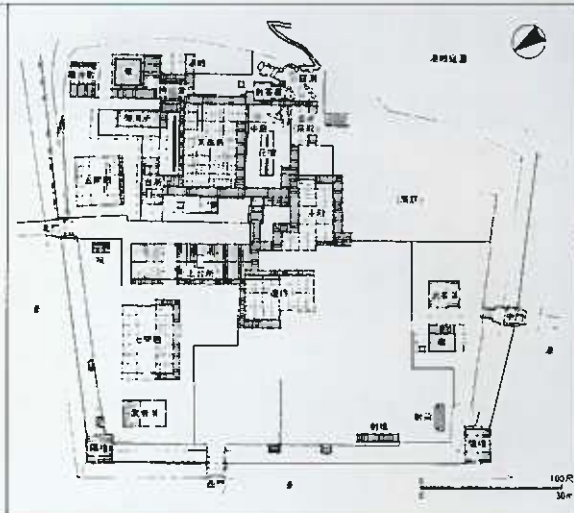
戦国大名の館跡の全貌が確認された例として全国初で、都の管領などの館を模したものと確認された意義は大きい。

③ 一乗谷城

城山（標高四七五メートル）の山頂部の稜線上や谷間に山城の遺構が築かれている。その主要部の規模は南北五〇〇メートル、東西三三〇メートルに及んでいる。

山城の構造は堀切で尾根を断ち、郭を築いた一の丸・二の丸・三の丸と尾根に挟まれた谷間に構築された千畳敷の山上御殿や赤淵神社・観音堂の宗教施設・宿直郭・月見櫓とに大別される。

また、腰郭の平坦面やその下方の斜面に築かれた畝状堅堀群（当地では「さざぎ畝」という）は、元龜年間（一五七〇―一五七三）、織田信長との合戦に備えて



朝倉館復原図

築かれた。これは敵の前進を阻み、横移動を防ぐ軍事施設で、約一四〇条確認でき、本県のみならず本州最多となっている。これは朝倉氏の戦路上重要な城に築かれている。

④ 武家屋敷

朝倉氏に近い家臣の屋敷は主に一乗谷川の東側にあり、後に臣従した外様の家臣の屋敷は反対側（西側）に配置されている。近江の浅井氏や美濃の斎藤氏の館は城戸の外に置かれた。

初代孝景の定めた『朝倉英林壁書』（戦国家法）に、「惣別、分限あらん者一乗谷へ引越し、郷村には代官ばかり置かるべきこと」との一条があり、朝倉氏はいち早く武家の一乗谷への集住策を採っていたことが実証された。

発掘された武家屋敷は土塁で整然と区画されているが、大小があり、また門構えも四本柱からなる薬医門形式と二本柱からなる棟門形式とがあり、格差がみられる。

⑤ 町屋

小規模な屋敷跡が町屋である。道路に面して入口をもった間口の狭い建物が軒を接して建ち並び、短冊形地割となっている。

発掘された町屋は出土遺物や遺構の状態から職種のわかるものがある。数珠玉を作っていた数珠師、目貫や小柄を造っていた金工師、各種の砥石の出土した刀研ぎ師、曲物を作っていた松物師、医書や乳鉢、スプーンの出土した医師、越前焼の大甕を据えた紺屋、フイの羽口の出土した鍛冶師、ヘラや

壺の出土した大工、かわらけの未製品や窯跡のあったかわらけ師などである。これらの職人は朝倉氏の支配下にあったと考えられている。

⑥ 寺社

一乗谷では四十ヶ寺余の寺院や、春日・熊野・八幡・赤淵・諏訪の各神社が確認されている。

いずれも谷合いや山裾、あるいは高台を選んで立地している。土塁で囲まれたものとそうでないものがある。寺院は墓地を伴っているものが多い。

心月寺は初代孝景が晩年になって祖父孝景の恩徳を思いその菩提を弔うため建立した寺院で、僧が二〇〇〜三〇〇人いた谷で最大の寺院である。曹洞宗の寺院で、朝倉氏の時代、住職は全て能登の総持寺の輪住を勤仕している。

三代貞景のとき、奥州の大名白川政友が京の寺社詣の際に心月寺に寄宿している。馬五〇頭、人数七〇〇人である。

寺域は六町で、墓地からは多数の卵塔や谷最大の五輪塔が発見されている。

⑦ 庭園

林泉庭園や枯山水庭園が合わせて十ヶ所余り確認されている。戦国時代庭園の基準となるもので高い評価が与えられ、次の四つの庭園は「一乗谷朝倉氏庭園」として国指定の特別名勝となっている。

湯殿跡庭園は庭石が林立し、力強く、



武家屋敷・町屋・寺院

亀石組みや鶴石組みがみられる。朝倉館庭園の飛石は日本最古クラスであり、南陽寺庭園は足利義昭が観桜の宴をした所として有名である。諏訪館庭園は二段に築かれ、滝副石は四段一三メートルあり日本最大で豪壮な造りである。銀閣寺の庭園の作りとの類似性が指摘されている。



諏訪館庭園

⑧ 道路と町割

これまでに発掘された道路幅は、①七六メートル（二五五尺）②四五・六メートル（一五五・二十尺）③三三・十尺（一〇一・二尺）④一四・七尺（四・七尺）の四つに分類されている。

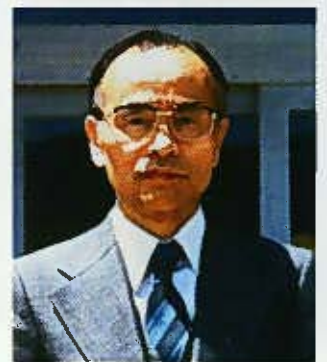
当時の記録に「〇〇橋の通」と「〇〇小路」とがある。前者は南から北に流れる一乗谷川を橋で横切る東西の道路をさし先の分類の④が当てはまり、後者は川を挟んで東側や西側の南北の道路をさし、①、②が該当すると考えられている。道路の計画性がうかがえる。

町割も一〇〇尺（三三〇尺）を基本単位として計画的に区画され、矩折りや行き止まり、遠見遮断などの軍事的防御の工夫がなされていることも判明した。

国学者 伴 信友

文／山本昭夫

筆者プロフィール



山本 昭夫氏
Akio Yamamoto

1927年、福井県小浜市に生まれる。福井青年師範学校卒業後39年間県内の教員として勤務。その間慶應義塾大学文学部に学ぶ(内地留学期間を含め所定の単位修得)(145単位)。1989年以降小浜市中央公民館に社会教育指導員として勤務。現在、小浜市および福井県の生涯学習指導員に登録。主な論文「物語と和歌の相互関係について」の論文により若狭ロータリークラブ教育研究賞優秀賞授賞。主な著書「時代の女性(近代文芸社)」「1997年刊、『郷土と女性(近代文芸社)』2000年刊。

「ふるさと人物シリーズ」第六弾として、江戸時代に国学を研究しその発展に功績を残された国学者伴信友を取り上げました。

小浜市で若狭地方の歴史について研究を続けている山本昭夫さんに執筆をお願いしました。

(財団編集係)

生いたち

伴信友先生は平田篤胤、橋守部、小田山と清とともに天保の国学における四大家と呼ばれた人です。安永二年(一七七三)二月二十五日小浜藩士山岸惟智の四男として現在の若狭高等学校敷地(小浜市千種二丁目)で生まれました。

先生が生まれた頃小浜藩主酒井忠用は学問の途に篤く、崎門学を採用してその主流である京都望楠軒の講主若林強斎の門人であった小野鶴山を藩に招き小浜藩の教育を



伴信友先生肖像画(小浜市立図書館蔵)

充実させ、鶴山死後は同じ望楠軒で四代目の講主であった西依成斎の子、西依墨山を召して子弟の教育に意を注がれました。九代忠實公は学則を定め学校としての順造館を設け(安永三年正月)、一方、江戸には講正館、必親楼時代が降って信尚館を設立して江戸での子弟の教育に力を注がれたのでした。先生も八才になると小浜の順造館に入られ学問にはげみ、熱心に勉強されその勉学ぶりは藩内でも評判になりました。

十四才の時小浜藩士伴平左門信当の養子となり翌年伴氏に連れられて江戸へと出て行かれます。藩主忠實公は

人から

先生は幼少の時から身体が弱かったので、自分自身健康には特に注意し配慮されていました。立派な体でないとな国のため、君のために尽くすことが出来ないし、今一つ健康でないとは好きな学問も思う存分に出来ないと思われたからでしょう、少年の頃からの数々のエピソードが残されています。そのうちのいくつかを挙げてみますと、朝晩強い弓を引き、刀の素振りをして手や足腰を鍛え、朝起きるとすぐ冷水で頭を冷やしてのぼせを防ぎ、常に外邪(外から犯される病気)で健康を害されるのは血の循環が悪いからだ朝床



伴信友先生生誕の地碑(小浜市千種)

を離れる時、夜床につく前にはきちんと正座して息を深く吸い、息をゆっくり吐く(深呼吸)すること三、四十回、体全体活気が出てくるまで続けられ、藩医であった杉田玄白の「養生七不可」の教えを受けてこれを実践されたのです。これは調べてみますと現在の私達にとっても気をつけなければならぬ事ばかりですので、いくつかを挙げてみます。◎昨今の出来事が気になること ◎いつまでもよくよくするな ◎明日ある事をそれ程心配するな ◎過度の飲食を慎みなさい ◎健康なのにむやみに薬を服用しない ◎体に自信があるからと不摂生をするな ◎常に体全体を動かす運動をしなさい 等々、現在

の社会にも共通する「養生訓」を実践されたからこそ当時にすれば七十四才

という長命を全うすることが出来たのだと思います。

その人柄を人びとは「温厚で篤実、謙虚、自ら誇らず、名利を好まず、来りて門弟たらんとする者数十百人、断固としてこれを辞し自ら師となるに足らず、皆学友なり」と殊に「御国の学は漢などとは異なり師弟の別なき趣なり」として現代的な言い方をすれば、先生は現代の学問の大家に属する方である。先生は学問の大家に属する方である。

先生は学問の大家に属する方である。先生は学問の大家に属する方である。

学問の途

先生が生まれた安永二年は賀茂真淵没後四年、本居宣長既に四十四才、平田篤胤はそれより三年後に生まれています。特に宣長の学風を敬慕して享和元年（一八〇一）十月、書をもって門人になりたいとお願いされたのですが、宣長はその年九月に亡くなっていたので、宣長の子、太平は先生の志の厚いのに感激して霊前に名簿を供えていわゆる没後の門人とした話はあまりにも有名で、ご承知の方も多いと思います。

このようにして先生の学問は賀茂真淵、本居宣長の遺風をうけ継がれ国学者としての道を同じように没後の門人となられた平田篤胤らと共に進まれる



伴信友先生顕彰碑（小浜市伏原）

「いよいよはなごその関を身の上にかへるやいかに雪のふるさと」の歌を詠み雪深い郷里秋田へ帰るかつての盟友の心中を察し案じておられます。ここにも世に言われているような平田篤胤と伴信友でなく其の後も変わらない二人の関係、特に先生の誠実な性格の一端を窺うことが出来ると思います。

さて、わが国の学問、国学は江戸時代の明和、安永より天明、寛政の頃になりますと、宣長らによりさらに発展して行くのですが、先生の場合、師、宣長の学問は継承しながらもわが国の国学を広範囲にわたり、着実に研究されています。具体的には、国体、神社、神道、国文、和歌、動植物、国史、地誌等々。特に昔から伝わった書物、土地に伝わっている伝説、その土地のことをよく知っている古老の話などを自らその地に赴いて直接聞き取られ自ら

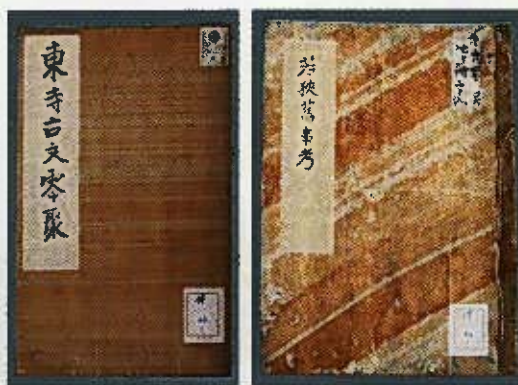
の手で集め、分類し、整理し、他と比較して、その集めた資料の真偽を鑑定し、それらに自分の意見を加えて世に発表する。さらに後日再びそれらにつけ加えた資料の吟味（附録）を追加して世にその考えを問うという論考のあり方を採っておられるのです。これは明治以降わが国の文献学、考証学と呼ばれる学問の基礎となるべき研究方法で国文学、歴史学の研究者にとって特に欠くことのできない方法なのであります。

偉大な業績

先生のこのようにして進められた業績をまとめますと、一、日本文化の源流特に古文獻の解明。二、古代人の信仰に関する考察。三、神社に関する研究。四、国の内外の史実を検討しこれを考証した国史に関する自らの考証。などに分類できると思われますが、その著述三〇〇巻、収録古典一五〇巻、校訂された古典二六〇巻に及び、中でも東寺に残されている古文書の抜萃『東寺古文書零聚』や若狭人として郷土の歴史や文化に深い関心を寄せられて考証された『若狭旧事考』『八幡考』『若狭国志附録』『若狭国神名帳私考』など、特に稲庭正義の『若狭国志』に加えられた詳細な校訂は若狭の歴史を見ていく上でいすれも穩健で妥当、しかもその史料の取り扱い、史実の批判は厳正篤実であって先生の「まことを重んじ途に背くまいと言つ真心」によって進められた考証の一端を窺うことができるのであります。

これは又先生の最後の論考とも言つ

べき「長良の山風」によっても窺い知ることが出来ると思います。本論の草稿ができたと思われる文化十一年より文政二年ごろまでに絶えず加筆修正し訂正されていますし、また附録一〜四によって訂正および抹消がかなりされていて決定稿とみなしたものの「未だ語られざる考え」もあり、本文よりさらに加筆しなければならぬ重要な事項もあつたので後に書き添えられたものと思われ、後世の学者に言わすれば恐らく先生は亡くなられるまで続けられたであろうと言われています。



東寺古文書零聚と若狭旧事考原本（小浜市立図書館蔵）

最後に先生は、「学びの道はたがいその説のあうとあわざるとのあるこそめでたけれ」と自説にこだわることなく、しかし自らの学問に対して実力信念の程もこれによっても理解できると思うのであります。このようにして七十四才で京都所司代邸で亡くなられるまで二にも学問、一にも学問と、「生涯学習」の途を身をもって実践し後世にその偉業を残されたのです。

（おわり）

●第12回●

風花随筆文学賞

最優秀賞（一般の部）に
木村恭子さん（栃木県）

平成二十年年度の「風花随筆文学賞」（同実行委員会主催、当財団特別協賛）の授賞式が三月七日福井新聞社・風の森ホールで行われました。

この文学賞は、福井市出身の芥川賞作家津村節子さんの随筆「風花の街から」にちなんで名称を冠した賞で、平成九年度に創設、十四年度から実行委員会により運営されており今回は十二回目です。

応募作品の審査委員長を務められている津村節子さんから入賞者十七人が表彰されました。津村さんは、一年々内容が充実しどの作品も秀作で、どれを最優秀賞に選んでいいのかわかりませんでした。」と話され、また入賞作品一つひとつに講評されました。

今年度は、国内外から一般の部千三百八十四編、高校生の部二千三百七十四編、計三千七百五十八編の応募が寄せられ慎重な審査が行われました。

最優秀賞、優秀賞受賞の皆さんは、次のとおりです。（敬称略）

一般の部

- ▽最優秀賞・福井県知事賞 木村恭子（栃木県）「こいのぼり」▽優秀賞・福井新聞社賞 中田澄江（山梨県）「残された時間は限られている」とも」▽優秀賞・仁愛女子短期大学賞 永田祐子（京都府「旅立の場所」）▽優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞 渡利與一郎（福井県「最後の志願兵」）▽優秀賞 中村妙子（高知県）「自然のまにまに」
 - ▽優秀賞 大堂洋子（広島県）「父からの電話」
- ## 高校生の部
- ▽最優秀賞・福井県教育委員会賞 黒坂穂波（仁愛女子高校）「おじいちゃん」と私の帰りの道」▽優秀賞・福井新聞社賞 岡部憲和（東京大学教育学部附属中等教育学校）「友」
 - ▽優秀賞・仁愛女子短期大学賞 田中美有紀（長野女子高校）「後悔先に立たず」
 - ▽優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞 石橋あすか（武生商業高校）「頑張れや」
 - ▽優秀賞 牧野良成（大阪府立三国丘高校）「空、端色のジャム」
 - ▽優秀賞 荒木沙都子（金津高校）「平和を生きる私達」

げんでんふれあい福井財団賞 受賞作品紹介

最後の志願兵



一般の部
優秀賞

渡利與一郎さん
（福井県鯖江市）

父が死んだ。火葬場に向かう途中、昔遊んだ長堤に咲く真紅のコスモスが秋の日に輝いて眩しかった。

両親との折り合いが悪く、三十年以上前上京した私にとって故郷は縁遠いものになっていた。私は、葬儀で父と二人だけの唯一の思い出を会葬者に向かって話した。

「昭和三十年か三十一年頃、私を伴った社員旅行の帰途、父は映画を観て帰宅が遅れ、待っていた母と一悶着ありました。映画は太平洋戦争の最中、敵の攻撃を受けた日本海軍の伊号潜水艦が、海底で最期を迎える状況を描いたもので、乗組員が船内に閉じ込められ死に行く状況は、当時七歳の私には相当な衝撃でした。まして十六歳で海軍に志願入隊した父には、乗っていた巡洋艦が沈没し荒海に投げ出され九死に一生を得た体験と重なり、一層辛いことだったのでしよう。映画館の暗い隣の座席から、『くそ、くそ』と何度も呟いていた父の声が忘れられません。その時、怖くて父の顔を見られませんでした。多分涙を流していたのだと思います。私は押し殺した父の声

を意識しながらスクリーンを凝視していました。……」

ここまで話して、不意に息が詰まり嗚咽が私の口から漏れた。私は思わず狼狽したが、数呼吸置いて辛うじて挨拶を終えた。今思うと、待っている母の事を考えても敗れて映画館に足を向けたのは、亡き戦友への鎮魂の儀式のためではなかったのか。また私に対しては精神のバトンタッチの意味が有ったのかも知れない。寡黙だった父が映画を通じてそのことを伝えたのではない。挨拶の最中、父の私へのそういう思いを忽然と実感したのは本当です。

父の生前はその生き方への不自信もあり、父と私は何かにつけて齟齬があった。テレビが家庭に普及した時期、父は「皇室アルバム」という番組になると決まって正座し、終わるまで不動の姿勢を保ち続けた。正座の理由を聞

いても語らず、頑としてその態度を貫いた。そこには尊崇の念が誰の目にも感じ取れた。その姿勢は彼が元氣な間はずっと続いたらしい。私はそんな意固地な姿に違和感を覚え、時には疎ましくさえ思った。

やがて私は東京の大学に入り様々な価値観に触れ、父との空白を埋める意味からもその思想を理解しようと努めた。父が命を賭して買いたったものの本質を知りたかった。

父は、同年代の多くの若者と同様に志願して軍隊に入った。叔母から聞いた話では、結果的に召集令状が来た最後の世代だったようだが、入隊年齢を待ち兼ねて志願したらしい。戦前、国民挙げてのプロパガンダが純粋な少年を軍国少年に変えたことも、当時皇国史観の泰斗が父の故郷出身者であり、父はその長男と同級生だったことも知った。しかし、強烈な洗脳に曝され



作家 津村節子さん(前列中央)を囲み表彰記念撮影

ても、終戦を境に多くの軍国少年は民主主義を謳歌したが、父は身を潜め最期まで現世と一線を画し、愚直なまでに戦前を守り通したように見えた。

父の死後押入れから几帳面な字で綴られた四百枚余の小説らしき原稿が出てきた。内容は戦記物とは違ふ戦友の細密な人間記録のようなものでした。別段戦争を賛美しているわけではないが、死と隣り合わせの人物が丁寧に生き生きと描かれていた。作中人物に自己を移入し、戦後の父には観られない充実した生が溢れていた。驚いた事に父は文中では非常に饒舌だった。

しかし、これ程膨大なエネルギーを注入して何を訴えたのか。普段父は自己を主張せず、遊びも酒もやらず家族のために働いた。今思えば贅沢なことだが、親として一切子供を指導しない父に不満を抱いた。しかし原稿を読ん

で以来、父の寡黙は自らが受けた教育を子供に施すことを敢えて封印した結果だと思えるようになった。戦後社会を、自分と同じように子供を生き難くさせない為に。そうであれば戦前に受けた教育を頑なに守った生き様や、原稿を六十年間人目に触れさせなかった行為も私には理解できる。

結局、父は戦前を総括する積もりで書き始めたが、阿鼻叫喚の海に消えた戦友に寄り添って書き進むうちに、戦後にけじめをつける結果になったのだと思う。幼い私と入る風呂の中で、父がいつも「海ゆかば」を歌っていたのを思い出す。その都度風呂場は厳粛な雰囲気包まれた。心優しき父は戦友に殉じ、戦友達や自分が信じた思想に殉じる結果になったのではないか。

その代償として父が得たものは、戦後の価値観に洗脳された私達との確執と孤独だけだったのだろうか。漸く父を人間として観られる年齢に

なった現在、競争社会を孤独と寂寥感と共に生き、無愛想の漂泊人のような私に比べ、父は依るべき思想と固い絆の戦友が存在した分、私より幸せな生き方をしたとも言える。いずれ向こうへ逝った時、若い頃批判ばかりしてついに和解を果たさなかった私を、父は温容を湛え「そうか、そうか」と云って許してくれるだろうか。

「頑張れや。」



高校生の部
優秀賞

石橋あすかさん
(武生商業高校)

だつて負けず嫌いだ。そんな性格はきつと、祖母譲りなんだと思う。こんな性格だから、何度酷い事を言ってきたらう。

「ばあちゃんなんか居たくない。何でうちには、お父さんもお母さんも居んのや。高校入ったら、この家出て行くでいいけど。」

私は高校生になったら、親の店内で暮らす事になっていた。祖母もそれは分かっていた。祖母は、私が言った言葉に対して何も言い返したりはしてこなかった。ただ、寂しそうな背中を向けてテレビに集中しているフリをしていただけ。

私は高校生になり、親元で生活するようになった。幼い頃からずっと当たり前のように一緒に居た祖母とは、なかなか会えなくなる。うるさい祖母から離れたくて仕方なかった私の心は何故か、寂しさをいっばいだった。でも、そんな素振りなど見せたくない私は、別際際、

「ばあちゃん、あすかが居なくなるで清々するやろ。」

寂しさを隠すための精一杯の言葉だった。どうせあの性格だから、また突っかかってくるのだらうと思つてた。

「頑張れや。頑張れ、頑張れな。」

何度繰り返しただらう。不器用なりに私の頭を撫でて、何度も何度も繰り返した。涙が溢れそうなのを必死でこらえ、最後の最後まで強がった。

高校に入學してから、ばあちゃんのところへはなかなか帰らなくなった。勉強や部活が忙しいのと、こっちの友達と遊んでるのが楽しいという理由と。帰らなくなって何ヶ月経つただらう。久しぶりにばあちゃんからの電話だった。

「元氣か。頑張ってるか。いつ帰ってくるんや。」

祖母の声は驚く程、小さくて弱くなっていた。最近体調が良くないとは聞かされていたけれど。

そんな祖母に今年、癌が見つかった。手術するために入院が必要だと言った。長い入院になりそうだと言った。私たちは手術前に、祖母のところへ帰ることにした。あんなに元氣でケンカだつて私に負けた事のない人。少し見ない間に、すごく小さくなっていった。いつも見ていた大きい背中がなくなる、前に体をかがめなければ歩けない。痩せて出てしまった骨やシワシワになった手足、そんな姿が祖母の年齢を感じさせた。そして幼い頃から迷惑をかけた続けた祖母に恩返しが出来なかった。部屋の掃除、食器の片付け……できる限りの事をした。祖母は、私に「ありがと」など言う人ではない。しかし、その日は違った。優しい目をして、

「ありがと。」

一言言つて私の頭を撫でた。恥ずかしくて素直になれない私は、照れ臭くてよけてしまった。

その日の夜、初めて祖母の弱音を聞いた。

「手術嫌やな。入院ものこいわ。」

そんな姿を見た事のない私は何も言えずにただ、うなずくだけであった。そして、私の幼い頃の話を懐かしそうに話す祖母は、とても幸せそうどこか不安気であった。

手術の日、祖母を病院まで送るのに私は一緒にいて行つた。病院に着き、入院するために用意した着がえなどの荷物を病室まで運び終えたら帰る時間だ。不安そうにしている祖母に「大丈夫やから」と言つた帰り際、

「頑張れや。」

まるくなった背中を撫でながら、不器用なりにただ一言、祖母に言つた。祖母は笑つて、小さくうなずいた。

ふくいの

伝統行事

福井県指定無形民俗文化財

「閭見神社例祭神事」

若狭町

閭見神社は、若狭町成願寺地区にあり国道二十七号成願寺交差点を東へ入った三十三間山の西麓に鎮座しています。

御祭神は第九代開化天皇の皇子・日子坐王の妃である沙本之大閭見戸売命と字問の神様・菅原道真公です。

天神さんの春祭り

四月五日（毎年）氏子から、「天神さんの春まつり」と称され親しまれている県指定無形民俗文化財の「閭見神社例祭神事」が今年も盛大に行われました。

氏子集落は、大区の倉見、白屋と小区の成願寺、上野、岩屋と井崎、黒田の七区です。例祭を取り仕切る当屋は毎年交替制で大区は三年に一度、小区は七年に一度勤めます。

今年は倉見区が当屋を勤めました。前年の祭例で当屋を受けた区は、年明けと共に祭りの準備を始めます。

四月五日十時三十分頃、神社拝殿に



豊栄ノ舞

において
氏子総
代・来
賓参列
のもと
例大祭
が厳粛
に斉行

されます。渡辺宮司が氏子集落の安寧と五穀豊穡を祈る祝詞を奏上し、その後小学生女子による「豊栄ノ舞」が奉納されました。

当渡しの儀

参道入口の通称「大槻木」広場に据えてある平板の石の上に大御幣を立て、氏子をはじめ多くの参詣人が見守る中、王ノ舞と獅子舞が舞われます。その後、大御幣を挟み本年の当屋（倉見区）と翌年の当屋（白屋区）が向かい合って座り、御祭礼帳が収められた風呂敷包みの中身を検めてから受け渡す「当渡しの儀」が行われました。

大御幣掲ぎ

「当渡しの儀」が無事終わると、長さ六尺四寸角の松の生木で作った大御幣の四方に荒縄を結び付けます。「ホー」の掛け声で行われ、



氏子による大御幣つき

イヘイ、ヘヤヘヤ「ホー」という掛け声で囃し立て、大御幣を空中高くまで揚げて地面に叩きつけながら約二〇〇mの参道を練り歩きます。木っ葉微塵をなめるまで掲ぎまくる光景は他に見られない特殊な神事です。

神輿渡御

大御幣が木屑となつて本殿前に納まった十四時頃、六角型で朱と黒の漆塗りできらびやかさはないうが古来の神輿を偲ばれる風格と気品を備えた神輿がかつぎ手にかつがれ参道を駆け、掛声をかけながら勇しく集落を回ります。



神輿渡御

御旅所神事

参道の中程に広場があり御旅所とい、十五時三十分頃集落を巡回した神輿が御旅所に着き広場中央に神社に向かつて据えられます。神職を迎えて祝詞奉上、神酒一献で一同に盃が回された後、神輿に王ノ舞と獅子舞が奉納されました。

この王ノ舞は、平安の雅を漂わせ、稚児のイメージした洗練されたもので、今年は、増井佑哉さん（十二才）と大野辰郎さん（八才）が王ノ舞と鉾持ちを演じました。王ノ舞は、濃い茶色の鼻高面をつけ、赤や青、黄色など五色の色紙で飾りつけた船鳥帽子をかぶり、紫色の振袖の上に黄色の狩衣と括袴を

着て赤い帯を結び赤い手甲と脚絆、白足袋に草鞋ばき姿で優雅に舞います。鉾は、百二十八cmの木製で刀の部分は銀紙を貼り鐸の部分は色紙で飾りつけています。



子供が演じる 王ノ舞

福餅まき

御旅所神事が終わると神輿が再びかつがれ大鳥居をくぐり神輿庫に納まります。



福餅まき

その後、神職が遷御の祝詞を奏し、御分霊を本殿内陣に奉遣します。

この後、境内に多くの参詣人が集まる中、福餅まきが行われ、十六時三十分頃に例祭行事がすべて終わりました。

氷室山水図

一幅

原在明筆



梅雨があけて盛夏を迎える頃になると、かき氷や氷水が恋しくなります。冷蔵庫などのない時代、氷は人々にとって憧れの的であり、また夏の風物詩としてたいへん愛でられました。

本図は奥深い山道をゆく衣冠装束の公家先頭に、白木の櫃をかつぐ供御人らの一行が描かれています。これは、夏に氷を食するた

めに冬の間に切り出した氷を保管する「氷室」と呼ばれる貯蔵庫から宮中へ献上する蔵氷を運ぶ道中を表したものです。一説には關難氷室から仁徳天皇に氷を献じたのが始まりとされており、平安時代には年中行事のひとつとして陰暦六月一日に行われ、氷室の節供とも称されました。

画中には、鮮やかなが施され、

また樹木なども細かく描き込まれており、原派の師祖・在中の特性をよく踏襲しています。山間をぬける清流も涼しげで、涼を求める季節にふさわしい風情ある作品といえます。

原在明は、原在中の次男として安永七年（一説に天明元年）出生。天保五年（一八三四年）五十七歳叙正六位下、任内舍人。同六年、兼

大和介。同七年、兼内匠大允。年中行事絵巻十六巻を写している。同十三年、叙正六位上。同十五年、六十七歳没。

□絹本着色

□縦124、2×横55、5cm

□江戸中後期

□落款「内匠大允在明」

□印章「平在明印」白文方印

「子徳」白文方印

福井の文学碑

彫刻家
ハープ奏者
作曲家

雨田光平

福井市出身の彫刻家でハープ奏者、
箏曲家の雨田光平の歌碑が福井市毛
矢三丁目の足羽山公園の登り口附近に
「雨田光平歌碑を建てる会」によって
建てられています。
碑には、



歌碑（福井市毛矢町）

思ひ出
夏の夕は
こよなくわがし
赤々ともゆる雲の流れに
をさなきとじの
思い出の舟浮かぶれば
蟬時雨波かよば可里
ここにしみてかな志
と彫つてあります。
裏面には、昭和二十三年（一九四八）
に作詞、作曲した「初夏草心抄」が次
のように刻まれています。

生いたち・経歴



若き日の雨田光平肖像画

雨田光平は、明治二十六年（一八九
三）に福井市相生町（現在毛矢町）で
生まれました。福井中学校在学中美術
教員で洋画家の辻永氏から「立体的な
感覚を持っている」と才能を評価され

わらべ唄
一、お城下通ればハタの音オサの音
片町小町のハタおり娘が
拍子そろえてハタを織る
二、麦の葉っぱに腹する燕の
歌が出来たと曙覧の翁が
足羽の山から下りて来た
三、九頭竜のぼれば小鮎がスイ〜
青葉がキラ〜流れがキラ〜
あられがこん喰いたいんなら
冬まで待ちないの
四、三国の浜辺にうにかにわかに
夕やけこやけの波のかしらに
もぐったりうかんだり
海女の口笛

帰郷・福井での活動

昭和二十年四月戦災を避けるため福
井に帰郷。昭和二十三年福井震災に遭
い、「初夏草心抄」を作詞、作曲した。
その後福井で彫刻の制作活動を再開し、
震災記念碑のレリーフをはじめ福井の
偉人や財界人の肖像などの作品を数多
く制作した。その主なものは、昭和三
十七年岡倉天心像、昭和三十九年岡田
啓介像（福井市中央公園）、昭和四十
年梅田雲浜像（小浜市児童公園）など
です。福井での生活信条は、「自分に
厳しくするものに心を労することなく
常に楽しく芸術の道を歩むこと」とし、

た光平は、彫刻の道を選び、明治四
十四年（一九二一）東京美術学校（現
東京藝術大学）彫塑科に進みました。
在学中、特待生として彫刻の制作に
励み、第十回文展に「女の顔」（現在
東京国立近代美術館収蔵）が入選、文
部省に買上げられました。

大正九年（一九二〇）九月妻しづと
ともに渡米。サンフランシスコを経て
ミシガン州の家具工場に夫婦でデザイ
ナーとして働き、アメリカ在住の五ヶ
年間は箏やハープを弾くことに専念し、
彫刻の制作活動はしなかった。

大正十四年（一九二五）十月ハープ
を勉強するため渡仏。ハープを習いな
がら彫刻を研究しました。

昭和四年（一九二九）九月に帰国。
東京で彫刻の制作活動をし、最も充実
した時期であったと言われています。

昭和六年（一九三一）鈴木鼓村の歿
後「箏曲京極流」の第二代目宗家を継
承。昭和十年（一九三四）東京でハー
プ協会を設立し演奏活動を行いました。

雨田光平記念館

昭和三十年頃光平の弟子の梅原哲朗
氏（陶芸家）が織田町で創作活動をし
ていたことから、光平は織田町へたび
たび訪れ焼物に関心を持ち、自らも陶
作を行い地元の人々との交流を深めま
した。そのような光平の思い出を覚え
ていた長男の雨田光示氏は、光平の作
品や資料を織田町へ寄贈しました。
これをうけて織田町は、剣神社横に
「雨田光平記念館」を建設し平成十三
年に開館しました。



雨田光平記念館（越前町織田）



梅田雲浜像（小浜市児童公園）

げんでんふれあい スペシャル2009

憂いも辛いも、 いろはにほへと

— 長谷川伸八景 —

日(土)の夜、敦賀市民文化センターに於いて開催しました。

「横浜夢座」は、五大路子さんが座長を務め、横浜市民が実行委員会を結成してこの夢座を運営し演劇を上演しているもので、今年で十周年を迎えました。演目は、横浜生まれの小説家長谷川伸の名作で、昭和初期の伊豆の旅館を舞台に長谷川伸と名乗る客と仲居との間で、さまざまな出来事や真実が明らかになる様子を描いた人情劇です。

敦賀市出身で俳優の大和田伸也さんが友情出演し、大和田さんと妻の五大さんは、「コミカルにまたしんみりと人情豊かに迫力のある演技を披露し、ファンを魅了していました。」

【あらすじ】

舞台は、昭和八年(一九三三)熱海にある旅館の一室。前年に犬養首相が暗殺された「五・一五事件」や「満州国建国」などの出来事があった。

一景(昭和八年二月十二日)
熱海、海雲閣に一人の客がふらりと現れた。宿の主人や仲



熱演する五大路子さんと大和田伸也さん

その騒動の中、美津はある決意をする。長谷川と美津のやりとりの中で事実が明らかにになっていく。面白おかしくやがて哀しい人情物語です。

長谷川が東京に帰るその日の朝。旅館では騒動が起っていた。

三景(二月十五日)
近くの旅館に数日前まで長谷川の偽者が泊っていたことが判る。どうやら本者が来たので何もせず逃げ帰ったらしい。美津はその偽者がどうして長谷川を名乗ったのか長谷川とともに、その偽者の正体について推理し始める。

四景(二月十五日)
長谷川が東京に帰るその日の朝。旅館では騒動が起っていた。

新作の執筆に來たと言う長谷川。宿の主人幸之助は、旅館組合長を巻き込んで地元を舞台に新作を書いてもらおうと画策する。

二景(二月十二日)
「隣の母」や「一本刀士俵入」などで知られる人気作家の長谷川伸だった。横浜出身の仲居の美津は同郷である長谷川の大ファン。

居達は、宿帳に書かれた名前を見て驚く。客



居達は、宿帳に書かれた名前を見て驚く。客

若狭路文化研究会の十周年を迎えて

若狭路文化研究会会長 金田久璋



金田久璋会長

主に嶺南の民俗学・歴史学(地域史)の研究の団体である

金田久璋
「若狭路文化研究会が、平成十一年に発足して早や今年で十周年を迎えることになりました。福井県立博物館が歴史博物館としてリニューアルオープンをするに際して基本編成会議があり、民俗学の研究者を代表して、「民俗学の宝庫」とされる嶺南地方の貴重な民族文化が少子高齢化や過疎化により危機的な状況にあることを指摘致しました。民俗学からの提言はなぜかあまり採用されませんが、後日、当時の福沢教育長からの伝言として、嶺南地方で民俗文化を保存、育成、継承を計るための調査・研究団体を結成するようにとのご指示をいただきました。ついでには福井県教育委員会が推薦して(財)げんでんふれあい福井

財団から資金面の全面的援助をしていただくという、いわば至れり尽くせりの、願っても

「主の舞さんと若狭路の民俗」

～ 錦耕三と小林一男の交流をめぐって～



第三回フォーラム開催
(平成 19.3.10 於 美浜町中央公民館)

稿集」の出版に際しては記念フォーラムを開催しております。今秋には「若狭路の民話」の出版を祝い、発足十周年を記念して若狭町のバレー若狭で民話をテーマにした記念フォーラムを開催する予定です。ぜひ、多くのご参加をお願い致します。

平成21年度 財団助成事業決まる

文化団体など 121 団体に 2,007 万円を交付

福井県内の文化振興を図るために、文化団体等の事業活動に支援する平成二十一年度の助成事業は、四月二十日に公募申請を締め切り、四月二日と五月十九日の二回に分けて助成事業選考委員会を開催し、慎重に審査を行いました。その結果の答申を受けて、二、〇〇七万円の助成交付金を決定しました。

助成対象別の交付決定は、下表のとおりです。そのうち本年度初めて助成を受ける団体数は、五十団体で全体の約四十一パーセントです。

平成 21 年度 財団助成事業交付金一覧

事業大別	助成対象事業	団体数	助成交付金 (千円)
地域文化の振興事業	郷土の歴史・文化の保存伝承事業	16	2,800
	市民文化団体等の活動事業	45	6,880
	国際文化交流事業	4	370
	文化のまちづくり事業	19	3,380
ふれあい及びゆとりの創造事業	ボランティア団体等活動事業	9	970
	各種文化サークル活動事業	14	1,050
	環境保全等地域づくり事業	7	1,020
芸術鑑賞機会の提供及び文化創造事業	市民参加型芸術文化活動事業	6	1,600
福井県高等学校総合文化祭育成事業		1	2,000
合 計		121	20,070

財団の新専務理事に川波清一氏が就任

7月1日から就任



ご挨拶

(財)げんでんふれあい福井財団専務理事

川波 清一

第三十四回理事
会(六月十九日
開催)で推挙され
七月一日から財
団の専務理事に就
任しました。

六月十九日に開催した当財団の第三十四回理事会並びに第三十五回評議員会で市橋一義専務理事の辞任が承認され、七月一日付けで、川波清一氏が新しく専務理事に就任しました。

当財団が平成九年に設立されて十二年目を迎えようとしており財団の発展期となる重要な時期に、重責を担うことになり、私にとって文化の振興という初めての分野への挑戦であり、身のひきしまる思いであります。

本県内の文化振興ならびに活動状況は、平成十七年度に福井県で開催された「第二十回国民文化祭」を契機に新しい文化環境が整いつつあり、また県では、新しい文化のための指針「教育・文化ふくい創造会議の提言」(文化テーマ)が今秋出されると聞いています。

この様な中で、当財団の役員として福井県の文化の振興とゆとりとふれあいのある地域づくりを微力ながらお手伝いをする立場から、今日まで培ってきた絆を大切にして地域に根ざした財団の運営をするよう頑張っていきたいと思っておりますので、前任者同様ご支援とご指導をいただきますようお願い申し上げます。



北島三郎に扮するコロッケ

出てくる歌とトークショーで笑い誘われ十分に楽しんでいます。

くりの歌と話で最高潮に達しました。

約三十人の芸能人ものまねと歌をうたい、本人オリジナル曲「さくらの花よ泣きなさい」を堂々と歌い上げました。当日は、昼の部と夜の部の二ステージ公演でほぼ満席で二千二百人のお客様は、コロッケの人柄の良さからにじみ

コロッケ スーパーライブ

げんでんふれあいコンサート 2009



五木ひろしに扮するコロッケ

「げんでんふれあいコンサート2009」"コロッケスーパーライブ"を七月五日福井市文化会館で開きました。芸能歴二十九年目のコロッケさんは、ものまねと歌と笑いで熱演しました。郷ひろみ、西城秀樹、野口五郎の新御三家で幕あけ、森進一、美空ひばり、美川憲一が続ぎ、天国から招かれた淡谷のり子さんそっくりのトークショーでは、実在しているのではないかと錯覚する程の話しぶり、福井の話題でアピールしファンは懐かしさとおかしさで大爆笑。ロボット仕掛けの五木ひろしそっ

「越前曲水の宴」優雅に開催

平安期の歌遊び再現



「越前曲水の宴」(写真提供吉川悦郎さん)

平安時代の雅を再現した「越前曲水の宴」(越前蘭亭の会主催、当財団協賛)が五月五日、越前市の越前の里「味真野苑」で盛大に開催されました。

「曲水の宴」は、中国浙江省紹興市で始まり日本に伝わった行事で、折れ曲がった小川の淵に歌人が座り、小川に觴を浮かべ上流から流れてくるまでの間に即興で歌を詠み、流れてくる觴をとって酒を飲む歌遊びです。

この日は、十六人の演者が平安時代の貴族の衣装を身につけ小川のほとりで短歌や漢詩を短冊に筆で書いて盃の酒を味わっていました。

見学に訪れた観光客やファンらは、緑豊かな苑で、歌人の優美な姿と、タイムスリップした世界を楽しんでいました。

第32回

平成20年度 福井県新人演奏会

新進気鋭の若手音楽家が熱演

本県の若手音楽家の登竜門となっている県新人演奏会公開オーディションが二月二十二日、県立音楽堂で開かれました。

今回は、ピアノ部門十五人を含め三十人が規定の時間内に日頃の練習を重ねた曲を披露しました。

審査は、ピアノストの植田克己さん他五名が当り、十二名が難関を突破しました。

三月二十九日には、同音楽堂でオーディションを通過したピアノ部門五名、フルート二名、ハーブ、アルトサクソ、声楽



若手音楽家の演奏

各一名計十二人による「新人演奏会」が開かれました。

華やかな衣装をつけて自信に満ちた演奏で多くの聴衆を魅了し会場から熱い拍手が送られていました。

この演奏会は、本県出身者および県内在住の音楽家を育成するため県文化振興事業団が主催(当財団協賛)して毎年開催しています。

読者アンケートのまとめ

「げんでんふれあい福井(第32号)」について

財団情報誌第32号(平成20年11月発行)のアンケートに、回答をいただきありがとうございました。

第32号で良かった記事

- ふくい県民総合文化祭.....7名
- 戦国大名「朝倉氏の歴史と文化(二)」.....15名
- ふるさと福井人物シリーズ「橋本左内(中)」.....15名
- ふくいの伝統行事シリーズ「赤崎獅子舞」.....10名
- 敦賀市立博物館誌上ギャラリー/26.....4名
- 福井の文学碑「俳人・小説家 高浜虚子」.....6名

本誌へのご意見、ご要望

- 表紙のシリーズ、県内民俗芸能の写真がすばらしい。
- 毎年開催されるふくい県民総合文化祭にげんでんとして多大の支援をされたことを知り感動しました。
- 定時制通信制文化祭がとてもよかった。今後も記事にして下さい。
- ふるさと福井人物シリーズは、可能な限り続けてほしい。
- ふるさと福井人物シリーズは、とてもよい内容で、ぜひ子供達にも見せたい。
- 各シリーズのゆかりの地の行き方地図を載せて下さい。
- いつもながら、福井の文化・歴史について勉強になる記事が多く楽しく読めました。
- 有形、無形文化財に対し、多大の助成をされていることに感動しています。
- 助成財団として評価をしています。
- 平素の県内の文化、歴史の振興に寄与していただき、感謝しています。

これからも誌面の充実に努めてまいりますので、今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。(編集係)

「6月の宝石 ドナウの真珠」

豊永美恵とN響トップメンバー

坂井市出身のクラリネット奏者豊永美恵とNHK交響楽団の弦楽奏者四人が共演するコンサートが「6月の宝石 ドナウの真珠」と題して六月六日夜、県立音楽堂で開かれました。

この演奏会は、豊永さんがハンガリーのブダペストにあるリスト音楽学院で学び、同国で演奏活動を行っていること、また、今年は日本と国交樹立一四〇年であることから福井県文化振興事業団が



豊永美恵とN響トップメンバーによる演奏

主催(当財団協賛)しました。

コンサートでは、N響の第一コンサートマスターの篠崎史紀さん他三名と共演し、ハンガリーの作曲家ヨハネス・ブラームスの「クラリネット五重奏曲短調作品115」他三曲を演奏し、会場の約五三〇人の聴衆は、クラリネットと弦楽で叙情豊かで哀愁をおびた響きに感動し聴き入り、盛んに拍手が送られていました。

第12回 2009 写真コンテスト

募集要項

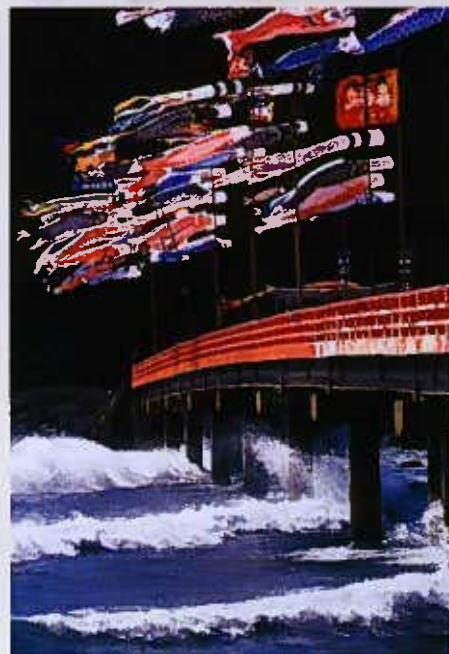
- テ マ 「みつめてみよう～ふるさとふくい」
- 部 門 学生の部(高校生以上)・一般の部の2部門
- 資 格 ①福井県に在住・又は学校・勤務先が福井県内であること。
②写真の専門家(プロカメラマン)でないこと。
- 作 品 応募点数は制限しません。ただし応募者本人が県内で2007～2009年に撮影したもので、自作の未発表作品に限ります。
- 作 品 の 規 格 カラー・モノクロで四ッ切、又は四ッ切Wの単写真のみとします。(デジタルプリントも同様)
- 応募方法 所定の応募用紙に必要事項を記入し、作品の裏にセロテープで貼って提出してください。
- 締 切 平成21年12月7日(月) 当日消印有効
- 発 表 平成22年1月下旬
※入賞者にはご通知いたします。
- 表 彰 表彰式 (優秀賞以上)
平成22年2月7日(土) 〈ふるさとの日〉
- 展 示 会 敦賀、福井市の2会場にて写真展を開催し、作品を広く県民の皆さんに公開します。
- そ の 他 ①デジタルカメラの作品は合成や特殊加工がないもののみとします。
②入賞者には、ネガ・リバーサル等原版(デジタルカメラの場合は未処理データ【原画】をCDなどにコピーしたもの)の提出を求めます。
③応募作品は返却しません。但し返却を希望される方は「返却希望」と封筒に朱書きし、500円分の切手を同封してください。
④入賞、入選作品の使用・著作権は主催者に帰属し、財団のPR活動等に使用させていただきます。
- 応募先 ①914-0051 福井県敦賀市本町2丁目9番16号 (財)げんでんふれあい福井財団
問合せ先 ②福井県カメラ商組合店及び
県内フジカラー取扱店



ふるさと大賞

第11回ふるさと大賞作品「春風に泳ぐ」

吉川悦郎さん(坂井市)



賞 金

ふるさと大賞	1点	賞状・トロフィー・賞金30万円 ※但し、高校生の場合は、賞金相当額の記念品とする。
ふるさと賞	3点	賞状・トロフィー・賞金 学生:5万円1点 / 一般:10万円2点
優 秀 賞	5点	賞状・トロフィー・賞金 学生:3万円2点 / 一般:5万円3点
入 選	30点	記 念 品 学生:記念品5点 / 一般:記念品25点
佳 作	30点	記 念 品 学生:記念品5点 / 一般:記念品25点

主催:(財)げんでんふれあい福井財団

後援: 福井県・福井県教育委員会・敦賀市・敦賀市教育委員会・(社)福井県文化協議会・福井県高等学校文化連盟・(株)福井新聞社
福井放送(株)・福井テレビジョン放送(株)・(株)福井ケーブルネットワーク
協賛: 福井県カメラ商組合・富士写真フイルム(株)・フジカラー北陸(株)

財団イベント INFORMATION

ビートフェニックス	キマグレン、清水翔太、九州男、福原美穂 他	9/ 5 (土)	福井市エルバ 屋上 駐車場 特設ステージ	FM福井主催、財団協賛 (前売り) 6,000円
第13回福祉演芸会	豊来家一輝(曲芸) 林田麻友子(歌手)	10/ 6 (火) ～8 (木)	県内6福祉施設	財団主催、無料
第2回 Keiko Matsui concert in Tsuruga	松居慶子 他	10/10 (土)	敦賀市民文化センター	松居慶子コンサート実行委員会主催 財団協賛 (前売り)3,500円(1階)
げんでんふれあいコンサート2009	県内で活動のミュージシャン	10/24 (土)	敦賀市きらめきみなと館小ホール	財団主催 (前売り) 1,000円
狂言を楽しむ会	茂山千五郎家一門	11/ 4 (火)	敦賀市プラザ萬象能楽堂	財団主催、無料